

世田谷区基本構想審議会第3部会（第3回） 議事要旨

【日 時】 平成24年5月30日（水） 午後6時～午後8時

【場 所】 世田谷産業プラザ 会議室

【出席者】

- 委 員 大橋謙策（部会長）、森田明美（副部会長）、坂東眞理子、大森猛
宮田春美、上野章子、宮本恭子、風間ゆたか
小林正美（第2部会）、永井ふみ（第2部会） 以上10名
- 区 小田桐政策企画課長、澤谷財政課長、田中政策研究担当課長、
吉田政策経営部副参事

【議事概要】

1 主な意見

（1）教育

- ・ 少子化の進展の中で子どもは「世話をされる」ことが多い。現実の課題に対応する力を養うために小学生や中学生が「世話をする」環境を創出する必要がある。
- ・ 20年後の社会は区民で切り拓いてゆくものであり、基本計画に区民の役割が記載されても自主性がなくては意味がない。自主性の教育という観点も重要である。
- ・ 環境を整備することで、自主性の伸張を阻害する面もある。そのため、主体性を育むという観点も踏まえ、社会システムを考える必要がある。
- ・ 地域の特性を活かした学校のブランド化ができるとよい。
- ・ 小学校は選択できないため、均質化が重要であり、人口の変化に合わせた統廃合等の議論を進め、最適化を図る必要がある。
- ・ 他人事を自分事と認識できるような物事の関係性をつなぐ力を育むため、ディスカッション等の機会を積極的に創出してはどうか。
- ・ 教育は親が基盤となるが、子どもは多くの人との関わりを通じて成長するため、地域で子どもを育てるという視点が必要である。

（2）高齢者

- ・ 昔に比べ元気な高齢者が増えており、また、心身の機能は使えば使うほど高まるため、林住期（50～75歳）の高齢者が地域の人々を助けることで、自分自身も元気になるような仕組み、世田谷モデルを創出できるとよい。
- ・ とりわけ、細やかな子育てサポートと、知識や知見を活かした教育という2点においては、高齢者の活躍が期待される。
- ・ インターネットを活用できる高齢者の増加、知的資源としての活用、コミュニティビジネスなど人と地域の関わり方といった点まで含めて、高齢者の人材活用を考える必要がある。

（3）地域資源の活用

- ・ 空き屋を有効活用する仕組みが必要である。今後、相続などで空き屋が発生した際、区として公共的利用への寄付を受け、それを若者や地域のNPOが活用できるための仕

組みづくりなどを進める必要がある。

- ・大学、NPO、高齢者や主婦などの地域の人材など、世田谷区はソーシャルキャピタルの宝庫であり、積極的に活用してゆくべきである。また、そうした資源を活用することが、世田谷ならではのブランド創出につながってゆく。
- ・財政が厳しい中で、地域にあるものを活用するという観点からは、公益信託など資産の社会還元のための仕組み、地域での善意を目に見える形で活用するための仕組みを整備する必要がある。

(4) 地域づくり

- ・誰もが地域で暮らせる社会システムを作るために、生活圏域ごとに、多世代が交流できる住宅や社会サービスの仕組みを検討する必要がある。
- ・生活圏、交流の単位として、小学校の学区は身近であり、活用しうる。
- ・かつては国の決定が地域においてきていたが、今は、地域の個人やグループの優良な取組が全国に展開される時代である。そのため、個人やグループの取り組みを区が積極的に支援してゆく仕組みをつくる必要がある。

(5) 権利擁護

- ・外国人という単位で括り、抽象的に議論を進めても意味がない。国籍や居住地区を具体的に想定し、検討するべきである。また、一時的在住ではなく、定住が増加しており、日本で生まれる子ども達まで含めた、長期的視点が不可欠である。
- ・安全・安心が身勝手な解釈による自分のための安全・安心になってはならない。20年後を見据え、ご近所づきあい、絆といった一昔前の安全・安心を見直すべきである。
- ・社会的ストレスが増大し、人権擁護の必要性が増す中で、民生委員など既存の委嘱ボランティアを見直し、20年後を見据え、世田谷区独自の委嘱ボランティアを作り出すことも考えうる。
- ・文書化、マニュアル化しても届かない層は絶対に発生する。社会的マイノリティをサポートする仕組み、サポートを促す仕組みを考える必要がある。
- ・20年後には、今以上に離婚が増加するため、複雑化する家庭や増加する一人親への支援といった視点も重要である。また、増加する生涯未婚者についても検討が必要である。

2 部会の運営について

- ・第4回と第5回については、今回の議論を柱立てし、より深めるとともに、抽象的な理念としての打ち出し方を議論する。
- ・子どもとの意見については、区長と子どもの意見交換会が別途開催されるため、部会主催での子どもとの意見交換会は開催しないこととする。